

二、宗門では、正法興隆に貢献した「池田先生」を なぜ呼び捨てにするのか

宗門の僧侶や法華講員が池田大作を呼び捨てにするのは、恨みや憎しみなどの感情によるものではありません。

自らの慢心によって日蓮正宗から破門された池田大作は、多くの学会員を誑かして仏法破壊の道にかり立てています。このような悪業の張本人であり、邪宗教の教祖となった池田に対して、宗門は敬称をつける必要をまったく認めていないのです。むしろ学会員はもちろん、宗門の内外の人々に、池田の悪業の実体を知らせ、それを糾弾するために、宗門は「池田大作」と敬称を外して呼んでいるのです。

たしかに池田は、一時、日蓮正宗の信徒を代表する総講頭という立場にあり、また創価学会の目的に沿って日蓮正宗の教えを弘め、宗門の発展に力を尽くしてきたことも事実です。

しかし池田は、宗門に対して表面では恭順を装いながら、陰では、宗門を支配し日蓮大聖人の仏法を自分の意のままに操ろうと謀っていました。まさしく池田は、御法主上人から任命された総講頭の地位を悪用して「宗門乗っ取り」を画策していたのです。これこそ恩を仇で返す「忘恩の徒」「不知恩の者」というべきです。

このような池田に、敬称をつける必要がないことは当然です。

なお、創価学会は御法主上人のお名前を呼び捨てにしていますが、いかなる理由があろうとも、日蓮大聖人を御本仏と仰いで信仰する者が、宗祖大聖人以来の血脈を承継される御歴代上人を呼び捨てにして、誹謗中傷を加えるなどという、大逆罪を犯した例は、かつて一度もありません。その意味でも池田大作の言動は、未曾有の大謗法なのです。